

令和元年度 ちゅーりっぷハウス自己評価まとめ

2020年3月26日（木）ちゅーりっぷハウス

重点目標1、一人ひとりの子どものありのままの姿を見ながら、成長過程に合わせた適切な援助や環境構成ができるようにする。

具体的な取り組み

- ・子どもの生活リズムを考えながら、過ごしやすいように導線を考え環境を整えた。
- ・保育者が援助し過ぎていたが、子どものやる気を奪わないように保育者間で話し合った。
- ・子どもの思いや姿を受け止め、共感しながら保育するよう心がけた。

改善点

- ・子どもと同じ目線で思い切り遊びながら、適切な援助や言葉がけを考える。

重点目標2、指導計画を保育者全員で共有し、子どもが主体となる保育を行う。

具体的な取り組み

- ・子どもが「やりたい」と思う気持ちを尊重し、一人ひとりが意欲を持って生活できるように子ども主体の保育を行う努力をした。
- ・子どもの遊びを発展できるような声かけや環境設定に心がけた。

改善点

- ・子どもが興味を持っていることから発展し、「楽しい」と感じる保育内容にしていく。

重点目標3、保護者との信頼関係を深め、保育者の専門性を生かしながら子育ての楽しさを伝えていく。

具体的な取り組み

- ・保護者の方の悩みを少しでも軽くできるよう、送迎時に話しをし子育ての楽しさを伝えるようにした。
- ・その日の子どもの出来事を、連絡帳や口頭で一つは必ず伝えるようにした。

改善点

- ・どの保育者も専門性を生かしたコミュニケーションがとれるようにする。

重点目標4、食を楽しむ体験を通し、「食べたい」と思う意欲を育てる。

具体的な取り組み

- ・調理員と連携し、誕生日会でのランチプレート、弁当箱に詰めるなどの特別な提供方法を通して食べる楽しさを感じられるようにした。
- ・トマトや人参などの栽培、収穫を行い給食で調理し食べる体験をした。
- ・食べることが「楽しい」と思える声のかけ方を全スタッフで共有したことで、苦手な物が食べられるようになった。

改善点

- ・様々な食材に触れ、五感を使いながら刺激し食べることを楽しむ。

重点目標5、防災、事故、感染症等、危機管理意識を高める。

具体的な取り組み

- ・園内研修で散歩ルート、嘔吐処理方法などの確認を全スタッフで共有した。
- ・いつ、どこで、何が起きるか分からないので、日々危険を想定しながら保育を行うようにした。
- ・関連施設や病院等、緊急時の連絡表の見直しを全スタッフで行った。

改善点

- ・場に応じた冷静な判断ができるよう、様々な事案を想定して訓練する。

令和2年度 重点目標

- 1、子ども一人ひとりと向き合い、思いを十分に受け止め代弁しながら適切な援助を行う。
- 2、子どもが主体となる「楽しい」「やってみたい」と思う保育内容に取り組み、自立心を育てる。
- 3、保育者の専門性を生かしながら、保護者との信頼関係を築く。
- 4、身近な食材に触れたり、栽培したりすることで食材に興味を持ち食べることを楽しむ。
- 5、臨機応変に対応できる判断力を身につけ、危機管理を徹底する。